



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ
2020～2021 年度 高山中央 RC 会長テーマ
「集う」



◆会長 村瀬 祐治 ◆幹事 岡崎 壮男 ◆会報委員長 岩本 正樹 ◆会報担当 長瀬 栄二郎

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 1256 回	58 名	57 名	47 名	—	82.46%
前々回 1254 回	58 名	57 名	48 名	2 名	87.72%

- 点 鐘
- ロータリーソング われらの生業
- 高山中央ロータリークラブ職業倫理基準

●会長の時間 会長 村瀬 祐治



30周年記念事業について

不登校の生徒児童へ通信付きのタブレットを贈呈して、であい塾・自宅などで個別に使用して義務教育の機会を多く与えるという事業です。

本来なら、であい塾へ持参して使うところなどを見て交流するのが本意ですが、コロナ禍の中での対応をいたします。

教育委員会と打合わせをして、最小限の人数で贈呈していくつもりであります。

会長・幹事・30周年実行正副委員長の4名で伺います。また、教育委員会もそのような対応をされるとのことでした。来週は休会なので30日の例会に報告いたします。

今日は、青少年交換 (Youth Exchange) について事業内容をお伝えしたいと思います。

世界 100 以上国以上で実施されているロータリー青少年交換は、ロータリークラブによる支援のもと、年齢 15 歳から 19 歳までの青少年に母国以外の国を訪問したり、そこに留学したりする機会を提供する事業であり、すべての学生は地元で申請を行い、地元地域の RC が支援をいたします。交換事業ですから、派遣と受入はセットで考えられており、地元から一人派遣すると、海外から一人地元で受け入れます。異文化を理解し、国境を越えた友情と信頼を築く機会をもたらすことで、世界の平和を少しずつ実現できる事業です。

青少年交換でいろいろな可能性が広がります。

- ・自分で考え、率先して行動する力を育てる。

- ・外国語や異文化を学ぶ。
 - ・海外の若者と交流し、友達をつくる。
 - ・グローバルな市民になる。
- などが期待されます。

交換の期間

海外で 1 年を過ごす長期交換では、複数のホストファミリー宅に滞在しながら、現地の学校に通います。数日間から数カ月間までの短期交換は、夏休みや春休みの期間中に行われます。多くの場合ホストファミリー宅に滞在しますが、世界中の交換留学生たちと合宿やツアーに参加することもあります。

参加費用

宿泊と食事代、学費はロータリーが負担します。そのほかの費用は地区やクラブによって異なりますが、通常以下の費用を学生が負担します。

- ・往復航空券
- ・旅行保険
- ・旅券とビザにかかる費用
- ・小遣い/追加の旅行やツアーに参加する場合の費用

高山中央ロータリークラブの青少年交換経緯

派遣 1994～1995 橋本麻里 アメリカ 25 年前

受入 1994～1995 ルイス・タメラ (アメリカ)

カウンセラー 陣出将男さん

受入 2014～2015 ヴィクトリア・アン・マチセン

(ノルウェー)

カウンセラー 中田専太郎さん

第 2630 地区としては、受入件数は多数ありますが、派遣については毎年募集人数に達しない。理由としては 1 年間高校を休学すると在学期間が 4 年となり、志望大学受験が不利になるとの意見があります。青少年交換事業については、メンバーの関係者や地元高校や同世代の子供たちに PR が必要であると考えております。3 月に 3 RC 合同で市民時報にロータリー特集号の発行について記載して頂きたいと思っております。

● 幹事報告 幹事 岡崎 壮男

◎国際ロータリー第2630

地区ガバナー事務所より

- ・10月クラブ会員増強報告書
- ・12月13日(日)職業奉仕委員会セミナー中止のお知らせ

○ロータリー米山記念奨学会より

- ・ハイライトよねやま 248

〈高山・デンバー姉妹都市提携

60周年記念事業実行委員長より〉

- ・「60年のあゆみ」記念誌受贈

〈会報〉

- ・高山RC ・下呂RC ・美濃加茂RC



● 本日のプログラム

高山中央未来委員会 委員長 大保木 正博



私たちのクラブでは、長期戦略計画目的を「職業奉仕に徹すること」として、CLPを導入して活動してきました。CLP導入から

8年を経過し、それ以後会員の異動も相当数あり当時を御存じない新しい会員さんも増えています。また今年は折からの新型コロナ禍による例会中止や行事自粛が続いています。こうした状況下で、ロータリーの奉仕について考えクラブに所属する意義をみんなで再確認することはクラブの将来に繋がるものと考えます。

そのため今日の例会では、今一度、ロータリーの職業奉仕についての歴史と考え方を確認し、当クラブが長期戦略計画目的に掲げる「職業奉仕に徹すること」の意味と意義を再認識する例会として実施します。

ロータリーに職業奉仕の理念を導入したのはアーサー・F・シェルドン氏です。シェルドンの奉仕理念を正しく知ることが、正しく職業奉仕を理解することにつながると言われています。

そこで先ず最初にシェルドンの職業奉仕理念とはどんな考え方なのか、「ロータリー源流の会」会長の田中毅PGの講演P・Pから引用してみたいと思います。

シェルドンは自らの事業を継続的に発展させるためには、自分の儲けを優先するのではなく、自分の職業を通じて社会に貢献するという意図

をもって事業を営む、すなわち会社経営を経営学の実践だと捉えて、原理原則に基づいた企業経営をすべきだとして、それをロータリーの職業奉仕理念として提唱したのです。このように歴史的に見てもロータリーとは職業倫理を重んじる実業人、専門職業人の集まりです。しかしながら、国際ロータリーでは幅広い奉仕活動を大義名分として職業奉仕の中核をなす職業倫理があまり強調されなくなってきました。これは大いに危惧すべきことといえます。

こうした中、私たちのクラブでは、私たちロータリアンが目指すものはあくまでもロータリーの本流である職業奉仕であり、「職業奉仕に徹すること」を長期戦略計画の目的としています。

その意識を会員間で確認しあい共有するために「高山中央ロータリークラブ職業倫理基準」を制定し、毎月第三例会に全員で唱和しています。私たちメンバー全員が各人の企業で職業奉仕に徹し「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」この標語を実践してまいりましょう。



<ニコニコBOX>

昨日、無事に父親の一周忌を済ませました。本日より、ゴルフ・麻雀・酒が解禁になります。

足立 常孝

結婚記念日に花束をありがとうございました。

渡辺 甚一

ロッテに勝ち越せたことに感謝して。

益田 大輔

本日も早退します、ごめんなさい。

西倉 良介

本日も早退します。

二木 公太郎